

## 留学前日本語教育教材の作成の試み

### Production of Japanese language textbook for the Preparation of Japan going abroad to Study

バトムンフ・トール エメリチェンコ・エレナ

#### § 1. はじめに

2008年5月から2009年3月まで足立は、新潟県県費留学生バトムンフ・トールさんとエメリチェンコ・エレナさんの指導教員となった。二人はモンゴルとロシアの大学の日本語教師であるが、新潟大学で日本語教育学を学ぶなかで、教材を作成したいという強い希望があった。本稿は、二人が試作版の教材作成にあたってどのような問題意識をもち、教材作成をめぐるどのような考察を行ったかについて論じたものである。

新潟大学在籍中の二人の研究テーマは、トールさんが日本事情教育で、エレナさんが会話教育であった。よって、試作版の教材作成も、担当は、トールさんが日本事情に関する部分で、エレナさんが会話教育に関する部分となっている。(足立祐子)

#### § 2. 日本事情教育に関する一考察 (バトムンフ・トール)

##### I. はじめに

モンゴルでは日本語学習者の数が急激に増えている。2006年の国際交流基金の調査によると、モンゴル国は国民人口あたりの日本への留学率は世界一となっている<sup>(注1)</sup>。モンゴルの大学で勉強している学生たちは在学途中に日本に留学する人がほとんどである。しかし、モンゴルでは日本についての十分な情報がない<sup>(注2)</sup>。従って、それらの学生たちは日本に来る前に、日本について十分な情報を得ることができない。

モンゴルにいる段階で日本についての情報を手に入れる機会といえば、「日本事情」の授業ということになる。現在、モンゴルの各大学で日本事情の授業がある。しかし、実際使われている教科書を見てみると、いくつかの問題点がみられる。

- ① 情報がおくれている
- ② 日本に来てからすぐに役に立つような情報が含まれていない
- ③ 日本語のレベルが初級者には難解である
- ④ コミュニケーションを重視する内容が充実していない
- ⑤ 面白さに欠ける

上に取り上げた問題点をさらに具体的に見ていく。

- ①情報がおくれている：上で述べたように、現在モンゴルの大学で使われている多くの「日本事情教科書」は情報がおくれている。テキストの内容は現在の日本の社会の実情とは合わないことが多く、教科書通りに覚えても、実際日本に来てからカルチャーショックを受ける可能性が高い。
- ②日本に来てからすぐに役に立つような情報が含まれていない：現在、モンゴルで使われている教科書の構成内容を見てみると、ほとんどの教科書に次のような内容が必ず載せられていることが分かる。
  - 日本の歴史
  - 日本の地理
  - 歌舞伎
  - 茶道
  - 生け花
  - 短歌と俳句
  - 高齢化社会
  - 少子化社会 など

これらのテキストでは日本の社会や文化について学ぶことが大前提になっている。しかし、今までの内容では学習者の学習ニーズがあまり重視されていないように思われる。つまり、これらの情報は学習者が日本に来てからすぐ役に立つかどうかという必要性をあまり考えてないように思われる。例えば、日本の歌舞伎、茶道、生け花などは本当に教科書で学べるものかどうか、疑問が残る。どちらかという、歌舞伎は実際目で見ないと味わえない演劇であり、茶道や生け花は実際体験してみないと勉強できないものであると考える。

- ③日本語のレベルが初級者には難解である：モンゴルで使われている日本事情の教科書の日本語のレベルが高いため、大学3、4年生になってから使用される。しかし、大学の2、3年の途中から日本に留学する人が多い。そういった学生たちは日本についてほとんど情報がないまま日本に来ていることになる。
- ④コミュニケーションを重視する内容が充実していない：実際使われている教科書のほとんどが文化学習となっていて、コミュニケーション能力はあまり重視されていない。つまり、テキストで得た情報をすぐ身につけるような練習やそれらの情報をコミュニケーションに生かせるような練習があまりない。
- ⑤面白さに欠ける：今までの日本事情の教科書の構成では教師が一方向的に教えている。実際、学習者に考えさせたり、ロールプレイさせたりするというような練習問題がない。学習者に興味を持たせ、興味を引くような練習がないため、多少面白さに欠けている面がある。面白さに欠けるということは、すなわち学生の学習動機に大きな影響を与えると考える。

以上のことを踏まえ、筆者は従来のものとは違う教材開発を目指し、日本語初級者を対象に、試作版を作成することにした。

## Ⅱ. 背景：モンゴルの現実

現在、モンゴルの大学の授業カリキュラムを見てみると、どこの大学も「日本事情」の授業が一学年にわたって、行われていることが分かる。モンゴルの場合は一学年32週間ぐらいある。つまり、前期が16週間、後期が16週間ということになる。さらに、授業時間を見てみると1週間に1回（1コマ=90分）である。さらに、1課を2回にわたって教えると計算すれば、日本事情の授業は年間およそ16回、つまり16課までしか進まないことになる。そう考えると、「日本事情」の教科書の第1課から第16課までの内容は学習者にとって、最も重要な情報を伝えるべきだと考えられる。つまり、構成内容の順番は学習者が、日本に行った時にすぐに役立つような身近な情報を提供できる順番になっていることが望ましいであろう。

## Ⅲ. 日本事情の内容についての検討

既存の「日本事情教科書」の内容を検討するために、日本で実際使用されている外国人向けの同種の教科書を取りあげ、分析を行った。分析を行ったのは以下の教科書である。

1. 「日本で暮らす」(1995年初版) 出版社：アルク
2. 「日本生活事情」(1991年初版) 出版社：アルク

上に取り挙げた教科書で、1の「日本生活事情」、2の「日本で暮らす」の構成内容は次のとおりである。

〔日本で暮らす〕	〔日本生活事情〕
1. 日本に来てからの手続き	1. 部屋を探す
2. 銀行を利用する	2. 買い物をする
3. 生活便利帳	3. 乗り物に乗る
4. 飲みに行く	4. 夏を快適に過ごす
5. 美容院と理髪店	5. 病院と薬
6. 日本の家庭料理	6. 日本の家庭を訪ねる
7. 旅に出よう	7. 本を買う、借りる
8. 友達を作ろう	8. 結婚式とお葬式
9. エンターテイメントを楽しむ	9. 郵便と電話を使う
10. 買い物上手になろう	10. 冬を楽しく過ごす
11. 公共施設を利用しよう	11. お店で食べる
12. マナーと贈り物	12. 引越しをする
特集 生活の日本語	特集 早わかり入管法

これらの教科書2冊は構成が同じで、どちらも上の内容からわかるように、留学生が日本に来て、すぐに役に立つような身近な情報から順番に構成されているのが特徴である。さらに、写真を豊富に利用し、学習者に分かりやすく工夫されていることが分かる。また、従来

の教科書にあまり載せられていないようなテーマが豊富に入っているのが大きな長所である  
と考える。

これらのメリットがある一方、下のようないくつかの問題もあるとみている。

- ① これらの教科書のテキストはどちらも日本語のレベルが非常に高い。
- ② テキストが短く要約されていないため学習者がたいくつする可能性がある。
- ③ テキストを生かした会話が少ない。また、練習問題が一切ない。

このため、実際の授業では使いにくいと思われる。また、内容的にもいくつかの問題がある  
と考える。具体的には以下のとおりである。

- ① 地震に備える（日本で暮らすp.-24）では、地震が起きた時にすべき行動が取りあげら  
れている。この中で、〈地震の時には慌てて外へ飛び出さない。壁や塀が崩れ落ちて、危  
険なこともある〉と指示している。しかし、学習者はこれを意識しすぎると、いざとい  
う時に正しく判断できなくなる恐れがあると考えられる。
- ② 薬局で買える薬（日本で生活する第5課 p.-42）では、（日本で買える薬は1万6千種  
類もある）と書きながら、同じく第5課p.-40では、約25種類の薬を取りあげ、それぞれ、  
風邪を引いたとき、頭が痛い時などとあげている。しかし、これでは、学習者はそのま  
ま覚えてしまい、教科書で覚えた薬しか使用できないかのように誤解する可能性があ  
る。
- ③ 美容院と理髪店「日本で暮らすp.37-40」では、専門家の美容師にしか必要とされない  
指示が一つ取りあげられ、学習者にとって必要性の低いものであるように思われる。
- ④ お店で食べる「日本生活事情 第11課 p.85-88」では、はしの正しい持ち方まで指示  
されているが、これは学習者に学習ニーズに向いているかどうか、疑問に感じる。

次に、日本国内での留学対象の「日本事情」の授業における目的及び内容について考察を  
行う。細川（2002）では、「公的基準における日本事情の位置づけ」について、次のようにあ  
げられている。（p.38）

「政府施策としての留学生対象特設科目としての『日本事情』の状況について見ておく必要  
がある。歴史上、様々な背景を有する『日本事情』が日本語教育の中で公的な施策用語とし  
て位置づけられるのは、1962年（昭和37）年の文部省令策21号及び、それについての四年生  
大学学長宛の通知である。その教育内容・水準は以下のように規定されている。

● 教育内容

『一般日本事情、日本の歴史、文化、政治、経済、日本の自然、日本の科学技術といったも  
のが考えられる』

さらに、細川（2002）では、「日本語教育能力検定試験の出題範囲」について、以下のよう  
な記述がある。

「一九八七（昭和六二）年に始まる「日本語教育能力検定試験」は、出題範囲が前記「基準的教育内容」の領域と重なっており、公的な発表はないが、関連する施策であると理解してよからう。

出題範囲は、領域とその細目である主要項目からなるが、『日本事情』は次のようになっている。

- \* 領域                日本事情（古典と文芸を含む）
- \* 主要項目        I    日本の歴史・地理・①日本の歴史                ②日本の地理  
                                II   現代日本事情 ①現代日本の政治・社会 ②日本の文化        ] (p.41)

細川は、このように日本語教育における「日本事情」の実態について詳しく調べ、最後に次のように結論を出している。

「以上のように、公的基準では『日本事情』の教育内容の具体例がいくつか示されているにとどまっているにすぎず、『日本事情』の考え方や方法、あるいはそれを支える理念などについてはまったく言及されていないことがわかる。」(p.42)

これらからわかることは、日本国内でも「日本事情」とははっきり定められた内容がなく、各大学で使用される教科書もそれぞれ違うということである。

そして、留学生を対象に「日本事情」を教えることについて、日本国内ではどういうふう to 考えられているかを調べてみた結果、以下のような意見があることがわかった。

細川（2002）では池田の主張について、次のように述べている。

「（池田は）『学習者には学習者の文化があり、日本とは異質の発想があるのだから、違う見方があっても誤りがない』と述べながらも、日本語教育では『日本語に伴う日本的なしぐさまで教えなければならない』としている点は、日本語教育における『日本人らしさ』の問題を暗示していよう」（p.29-30）

細川は池田の矛盾点についてここに強調している。上の細川の議論に関して、筆者は実際「学習者には学習者の文化があり、日本とは異質の発想があるのだから、違う見方があっても誤りがない」という意見と、「日本語に伴う日本的なしぐさまで教えなければならない」という意見のどちらを優先すれば、日本事情教育にとって、より具体的で効果的であるかについて非常に関心がある。筆者は池田の「日本語に伴う日本的なしぐさまで教えなければならない」という主張に対して抵抗があり、以下のようないくつかの疑問を感じる。

1. 学習者は異質の文化を持ちながら、日本的な文化に同化する必要はあるか
2. 日本的なしぐさまで覚えないと、日本の留学及び生活に本当に困るのか
3. 日本的なしぐさまで覚えないと、日本人とのコミュニケーションが不可能なのか

これらの問題点を含めて、「日本事情」の教科書の中から具体的な例を取りあげてみる。

例①：「日本事情生活 第6課」では、「和室でのマナー」について写真付きの説明が載せられている。その中で、次のようなことが挙げられている。

「足をくずすとはどんな格好？」女性—横座り、男性—あぐら

例②：「日本生活事情 第11課」では「はしの正しい持ち方」について写真付きの説明がのせられている。これらは非常に分かりやすく工夫されていると言えるだろう。しかし、その一方で、これらの説明はまさに日本的なしぐさになっているのではないかと感じる。これらの資料はどこからどこまで必要かということは、使用する人の必要性によって違うと思う。この教材を日本に留学をする学生を対象に使うと考えた場合、前にも述べたように、留学生にとって日本についての情報はなるべく簡潔にまとまっている方がよい。つまり、学習者が来日してから体験で学べるような細かい情報は取り除き、必要性の高い情報を優先すべきであると考え。よって、筆者は試作版にはそういった必要性の高い情報から順番に内容を作成し、「日本事情教育」における筆者自身独性を見出し、「日本事情教育」の問題を解決していこうと考える。ここでいう必要性の高い内容とは、筆者自身の主観的な判断から得た優先順位基準である。しかし、この優先順位決定に当たっては、筆者が日本語非母語話者としての視点を重視してとり入れた<sup>(註3)</sup>。

### Ⅲ. 本試作版の目的

本試作版の目的を明確にするために、「国際交流基金」から発行された『教材開発』に載っている「作る教材の明確にするための13質問」(p.20)の中で、試作版の目的に当てはまる質問を選び、自問自答の形式で具体的にみていく。なお、下の「答え」は筆者が教材製作にあたって考えたものである。

#### ■ 文化の学習について

質問⑨文化を学ぶ目的は何ですか。学習者に日本人のようになってほしいですか？例えば、日本についての知識をたくさん持っていたり、日本人のようにあやまったりできることが、文化を学ぶ目的ですか？

答え：文化を学ぶ目的は、学習者に日本人のようになってもらうことではない。日本の文化を知識として教えるが、日本人とのコミュニケーションにどのように生かすかは、学習者本人の判断次第と考えられる。

質問⑩文化の学習とコミュニケーション能力はどのような関係だと考えますか。

答え：留学生にとっては、日本の文化を理解することで、日本人の反応を正しく受け入れる能力を身につけるのが目的だと考える。筆者は文化が大きく分けて、次のように2種類あると考えている。

- ① 言葉の文化（敬語の使い方など）
- ② マナーによる文化（おじぎのしかた、座布団の上の座り方、はしの使い方など）

そこで、本試作版において文化とコミュニケーション能力について、どのように考えていくかを明確する。上記の①、②はどちらもコミュニケーション能力に当てはまる。大きな違いは、言葉の文化は学習者にとって必ず正しく学び、学んだ通りコミュニケーションに生かすべきだと考える。特に、日本語には敬語という大きな言葉文化があり、話し相手

や場面に合わせて、正しく使い分ける必要がある。従って、日本語学習者もコミュニケーションが行われている場面をよく理解し、コミュニケーション参加者に対する敬語の使い方  
方に注意しないと、日本社会で円滑な人間関係が築けない場合も生じると考える。それ  
に対して、マナー文化は学習者にとって、言葉の文化ほど重要であるとは考えられない。つ  
まり、日本のマナー文化を知識として学ぶが、人と接する時は必ずしも日本人のように、  
もしくは日本的にふるまいをしなくても、コミュニケーションには困らないと思う。つま  
り、知識として学んだ日本のマナー文化をどのように生かすかは、学習者本人の判断に任  
せるのが、本教材の目的である。

質問⑪文化の学習では何を教えたらいいと思いますか。日本事情（地理、歴史、行事、伝統  
文化など）ですか？

答え：本教材の狙いは、学習者が来日してからすぐにその学習者自身に直接影響があると考  
えるテーマを中心に取りあげている。従ってその場面でのコミュニケーションに生かす言  
語運用能力を学習者に身に付けさせることである。本教材では、日本の現代社会の事実や  
具体的な情報を「日本事情」だと考え、日本の歴史、地理、行事、伝統文化などは別に考  
えるべきだという立場をとる。

質問⑫どのように文化を教えたらいいと思いますか。説明型、体験型、そのほかの方法だと  
考えられますか。例えば、日本事情の科目として、言語学習とは別に教えますか。読解の  
一部として、言語学習と結びつけて教えますか。

答え：筆者は、ここで重要なのは言葉の文化であると考え。特に、それぞれの言語がそう  
であるように、日本語には日本語の独特な文化がある（敬語、あいまい表現など）。どのよ  
うにすれば学習者がそれをコミュニケーション能力に上手に活かせるかを考える必要があ  
ると思う。つまり、学習者の立場で考え、様々な場面での会話練習をさせるなど、学習者  
が日本語の使い方に困らないように助言をするのが重要であると考え。（実際ロールプ  
レイさせたり、ビデオを見せたりする）

質問⑬文化の学習については、どんな評価を行いますか。

答え：本教材ではコミュニケーション能力を重視するため、メインテキストで学んだことを  
ロールプレイなどでいかに生かしているかをもとに評価すると考える。しかし、今の段階  
では本教材には評価に関してはっきりした基準が定められていないため、今後の課題とし  
て考える。

#### IV. むすび：本教材では何を教えるか

本教材の学習目的について、ここでもう一度、考察を行う。前に述べたように、本教材で  
は文法学習よりコミュニケーション能力を重視し、現在の日本の社会で通用するコミュニ  
ケーション能力を学習者に身に付けさせるのが目的である。

コミュニケーション能力については国際交流基金の『教材開発』に、以下のように取りあ  
げられている。

「今日ではコミュニケーション能力とは、言語に関する知識（文法、漢字など）をどれだけ

持っているかということではなく、それらを使って、実際の場面で何かができることだと言われています。つまり、『知識獲得型の言語学習観』から『課題遂行型の言語学習観』への移行が起きているのです。課題遂行能力としてのコミュニケーション能力を育成するために、文法能力以外に何が必要かについては、色々な意見があります。1例として、本シリーズ第6巻『話すことを教える』では、キャナル（Canal：1983）の、①文法能力、②社会言語能力、③談話能力、④ストラテジー能力をあげています。」(p.17)

また、『教材開発』では、読者に対して次のような問いかけがなされている。

「あなたが、教材を作成する目的は『学習者の日本語能力』を伸ばすことでしょうか。『学習者』を『人』としてとらえ直してみたとき、社会の中でどのような役割を果たす存在になってほしいと考えますか。地球市民としての視野を持つ人、文化と文化の間を取り持つ人、仕事を通して自ら学ぶ人、困難な問題を解決する力を持った人でしょうか。」(p.21)

これを受けて筆者は本教材の目的を以下のように考える。本試作版は留学生を対象に考えたものである。学習目標として第1に考えるのは、「学習者の日本語能力」を伸ばすことではない。学習者が日本の社会の中で様々な対人関係を結び、その他のコミュニケーションで混乱しないような具体的な情報を伝え、それを生かした談話能力を身に付けさせるのが目標である。

学習者は異質な文化を持っているが、日本の文化を学ぶためには、必ずしも日本の文化に同化する望ましくないと考えている。むしろ、上記のように、地球市民としての視野を持つ人、文化と文化の間を取り持つ人、を育てるのが目標だと考える。異質な文化があるからこそ、そこに「文化」としての本当の価値があると思う。

### § 3 ロシアにおける日本語教育と会話教育の現状（エメリチェンコ・エレナ）

#### I. 教材を作る動機

ここ25年、日露の関係は様々な分野で活発的に発展しつつあり、その結果日本語を勉強しようとする人々が多く存在している。特にロシア極東の地域では日本語を学ぶ学習者の人数がどんどん増えている。以下の表は筆者が勤務する極東国立人文大学の日本語現在の学習者の人数をあらわしている。

コース	グループの数	人 数
1年	2	22
2年	2	28
3年	2	25
4年	2	17
5年	2	23

言語は異文化コミュニケーションに重要な役割を果たすとされている<sup>(註4)</sup>。コミュニケーションをとるということは、その言語を学ぶ学習者が現在のある場面で何かを伝達し、意思交流をするために、知識としての文法と語彙の中から最も適当で、自然な表現を選び、運用するということである。ロシアの多くの学習者はロシアの大学で日本語を勉強しはじめ、日本語の基本的な文法の知識を得る。しかし、筆者は初級レベルの会話学習に問題があると考ええる。なぜかという学習者の心理的な障壁や言語環境の限界などがあるからだ。具体的には以下のような点があがってくる：

① 言語環境の限界：

学習者はロシアで日本語を勉強しているので、当然のことだが授業の時間だけに日本語を使用しているという状態である。これは学習者がロシア語の言語環境の中にいることを意味する。言語環境がロシア語であるために日本語に触れる時間が圧倒的に不足している。従って、日本語のインプット不足の状態にいるので、日本人は日常生活で言葉をどのように使っているか、または、言葉が人間の暮らしをどのように支えているかという点について理解しにくい。そのため自然な会話を行うことが困難になってくる。

② 運用力の不足：

文法力を運用力に結びつけることができない。「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」という四技能に分けると「聞く」と「読む」がインプットに関わり、「話す」と「書く」がアウトプットに関わるものである。ロシアの日本語学習者は文法や語彙の知識を大学で学ぶが、それらの知識を融合させて、自分の伝えたいアウトプットにつなげることが難しい。作文「書く」の場合は辞書を使ったり、後で読み直したりする時間があるのでまとまった内容を作ることも可能になる。が、会話「話す」の場合は瞬時に処理しなければならない。ロシアの日本語学習者は日本語母語話者とコミュニケーションをとる際、常に自分の会話力に自信を持たず、自分の伝えたいことがうまく伝わっているかどうか不安を感じている。その結果コミュニケーションが中断する。これは心理的な障壁が原因だと考えられる。

③ 非言語行動に関する問題：

日本語における非言語行動の知識や運用が十分でない。初級学習者に対して言語行動だけでなく非言語行動も心理的な障壁の一つの理由であると考ええる。身ぶり手ぶり、表情、相手との距離の取り方が良く分からないので、コミュニケーション（対話）がスタートできない。（点火できない）<sup>(註5)</sup>そして、心理的な障壁のもう一つの原因は学習者の恥ずかしさだと考える。例えば、学習者は話したい内容の語彙が分からないときに、相手に自分の弱点を気づかれないように、コミュニケーションを回避しようとする傾向がある<sup>(註6)</sup>。

以上のような理由から日本語の能力を伸ばし、心理的な障壁を克服するために、多くの学習者が日本に留学したいと考える。日本に来ることで、学習者は日本語を使わなければならないという状況になる。しかし、日本に来た留学生たちは上述したように日常会話能力が足りないために、円滑なコミュニケーションが取れない。

このような問題を解決するために、筆者は留学の前にロシアで会話能力向上の準備が必要であると考ええる。具体的には運用力の向上や非言語行動に関する知識獲得とその運用のため

にロールプレイとモデル会話を作りながら必要なテーマについての表現を実行することが重要であると考え。例えば、「日本の乗り物（交通）」と言うテーマは留学生にとって日本に留学してすぐに必要とされるテーマの一つである。モデル会話を読みながら、コミュニケーション・ストラテジーの方法をどんな場面でどんな表現を使うのかについて覚えるのも大切だと思う。ロールプレイをするとき、このストラテジーを念頭において会話を進めることができる。このようにロールプレイで実際の場面におけるコミュニケーションのシミュレーションをすることで学習者は文法や語彙以外の運用に必要なものを習得できる。「あのう、ちょっとすみませんが…駅はどちらでしょうか」と言うような聞き方をする事で円滑にコミュニケーションが進められる。しかし、日本留学の際に求められるテーマを扱った教材が少なく、またロールプレイがたくさん含まれている教材も不足しているため、筆者自身が留学前準備用の教材を作成することを試みた。

## II. ロシアでの日本語教育の現状

現在、極東国立人文大学の東洋語学部の日本語学科では初級の日本語を教えるための基本的な教科書として「みんなの日本語」が使われている。また補助的な教材として「文化初級日本語」(I, II)「Japanese for everyone」という教材が利用されている。教材を作成する前に、現在に使われている教材と日本語教育の状況を検討した。そして、以下のことが明らかになった。

- ① 以下の表はハバロフスク極東国立人文大学の東洋語学部の日本語学科のある学期の期間をあらわしている。

学期	総週間(週)
前期	15
後期	20

- ② 担当教師によって授業の内容が大きく変わる場合がある。一年生のコースでは授業コマ数は前期が週8コマで、後期は週7コマだが、この時間は文法能力を伸ばす授業と会話能力を向上させる授業にわかれていない。つまり、担当教師たちは自分たちで任意に授業の時間をどのように分けるかを決めている。

1年生のコース

学期	総週間(週)	総時間数(時間)
前期	15	120 (週8コマ)
後期	20	140 (週7コマ)

- ③ 会話能力を伸ばすことに重点を置く教材がほとんど存在しない。会話能力を伸ばすために、決まった補助的な教材がないので、教師たちは自分で選んだ教材を使っている。したがって、学習者は習うテーマと知識が教師によって異なる。
- ④ ①、②が原因となり、一年生と二年生の学習者は初級文法と語彙の知識を持っているが、

日常会話でうまく運用できないという状態である。

- ⑤ 二年生のシラバスでは日本語授業はパタンプラクティス（文型練習）と日本語会話授業に分かれている。前期はパタンプラクティスの授業が週8コマで、会話授業が週2コマになっている。後期はパタンプラクティスの授業が週5コマか6コマで、会話授業が週3コマだという状態である。しかし、会話授業を行うために具体的なシラバスと基本的な教科書がないので、学習者の会話能力を伸ばすことを考えると、問題があると思う。

2年生のコース

学期	総週間(週)	パタンプラクティス(時間)	会話授業(時間)
前期	15	120 (8コマ)	30 (2コマ)
後期	20	110 (5コマか6コマ)	60 (3コマ)

### Ⅲ. 本教材の目的

考察した結果に対して筆者は次のような意見を持っている。

- ① 筆者が所属する大学の日本語教育の目的は異文化間のコミュニケーションの人材を育成することなので（注：極東国立人文大学の講義 要に記載されてある）、学習者の卒業時にその目的を達成するため、初級から会話能力を伸ばさなければならないと考える。
- ② 学習者は初級で受けた文法と語彙の知識を運用できないので、留学するときに様々な問題にぶつかっている。それで、留学前の準備として使っている教材は必要であると考え。よって、本教材の目的を以下のように設定した。
- ① 学習者は非言語の行動の知識が足りないせいで、コミュニケーションすることがうまくできない。本教材は非言語の行動の知識を拡大し、コミュニケーション能力も拡大させることを目的とする。
- ② 学習者は制限された言語環境内で日本語を勉強しているので、自然な表現の使い方は困難になる。できるだけ本教材に多くの自然な表現を入れ、制限された言語環境を拡張するためにロールプレイの時に学習者にアウトプットさせることを目的とする。

### Ⅳ. 教材の具体的な内容

設定した目的に基づいて、本教材のプロトタイプを作成してみた。最初に留学前準備に必要なテーマのリストを組み立てた。多くのテーマは重要であるが、共同作成者であるモンゴル国立大学のトール氏と検討し、一番問題になるテーマを選択した。具体的には以下のようなテーマがあがった。

1. 第1課 挨拶
2. 第2課 アパートを探す
3. 第3課 大学生活Ⅰ（部活について）
4. 第4課 大学生活Ⅱ（ホームシックについて）
5. 第5課 アルバイトを探す

6. 第6課 日本の乗り物
7. 第7課 トラブルが起きたとき
8. 第8課 地震が起きた時
9. 第9課 日本の季節（夏ばて、冬を快適に過ごそう）
10. 第10課 便利な表現

全教材のわく組みを設定した後で、第1課を試作してみた。以下の通りに構成した。

1. 課の題目
2. 課のテーマについての説明：初級日本語学習者が読むことを想定し、できるだけ簡単な日本語を使用する。
3. モデル会話：会話の中身にできるだけ多くの自然な表現が出てくるよう配慮する。
4. ロールプレイ：学習者はモデル会話で出てきた表現を使い、自分の会話を構築するために、その表現を暗記し、応用できるタスクを用意する。
5. コラム：課のテーマに必要な言葉と表現についての説明を行う。

以下は第4課の大学生活I（部活について）の会話とロールプレイの例である。部活についての会話である。

デルゲルマーさん：あ、チンさん、おはよう、久しぶりだね。

チンさん： ええ、本当に久しぶり。元気だった？

デルゲルマーさん：うん、元気だったよ。チンさんはどうしてたの？

チンさん：うーん、最初はずっと勉強してたんだけど、日本人の友達ができ、前より楽しくなってきたんだ。デルゲルマーさんはどう？

デルゲルマーさん：あたしも日本の生活にだいぶ慣れてきたけど、まだ分からないところもあるわね。

チンさん：えっ？どんなところ？

デルゲルマーさん：うん、先輩、後輩のような上下関係にまだ慣れてないし…

チンさん：あ、そうか。デルゲルマーさんまだ来たばかりだから…。でも時間が経てば、慣れてくるよ。ところで、日本語はどう？問題ない？

デルゲルマーさん：うん、もう日常生活では大丈夫よ。

チンさん：あーそれはよかったね。

学習者たちは上のモデル会話をまず覚え、モデル会話通りに演じることを行う。このモデル会話通り実際に演じることで基本的な表現のコンテキストでの使い方や、文章の作り方や、相手の反応の仕方を（答え方）習得した上で、後で出てくるタスクをする際に、間違いを避け、適当に必要な表現を作られるようになる。

初級学習者は本教材を通して、現在の日本の状況を学び、どんな場合でコミュニケーションをとるのか意識し、日本事情についての知識を獲得し、コンテキストに便利な表現を使え

るようになると思う。それに、各課の説明に非言語についての情報が紹介されているので、日本語の母語話者の行動やコミュニケーションの仕方を理解し、ロシア人として日本語を使ってコミュニケーションができるようになる。

#### § 4 今後の課題

二人の作成した教材は試作版であり、まだ完成していない。二人が帰国して二人の職場である各大学で実践し改訂しながら教材が作成されることを強く望んでいる。

11ヶ月弱にわたって二人を指導してしみじみ思ったのは、海外における日本語教育の困難さである。エレナさんが述べているが、制限された言語環境においてどのように学習者の学習意欲を高めるかということは教師にとって重要な課題の一つである。また、トールさんは日本語教育の本質的な点について問題を投げかけている。今後も二人と連絡をとりあいながら二人の教材作成を手伝っていきたい。(足立祐子)

(注)

---

<sup>注1</sup> (モンゴル日本語教育振興協会調べ) ... ja.wikipedia.org/wiki/モンゴル国の教育より

<sup>注2</sup> モンゴルの日本語教育は1990年頃から始まった。現在、モンゴルで日本語教師をしている教員の90%以上が日本留学経験がない、又は少ない非母語話者日本語教師である。そのため、学習者には日本について正確な情報を伝えることができないのが現実である。

<sup>注3</sup> 筆者はモンゴル文化教育大学の日本語教師であるが、同時にかつては日本語学習者であった経験を十分に活用したいと考えている。

<sup>注4</sup> 石井 (1987) p.87

<sup>注5</sup> J.V.ネウストプニー (1982) p.58

<sup>注6</sup> 第二言語として日本語を学ぶ場合、知識としての文法と語彙を学んだだけではコミュニケーションがとれないことをはっきりと注意しておく必要がある。

(引用文献)

石井 敏 (1987) 「言語メッセージと非言語メッセージ」『異文化コミュニケーション』有斐閣

J.V.ネウストプニー (1982) 『外国人とのコミュニケーション』岩波書店p.58

細川英雄 (2002) 「日本語教育は何をめざすか」 p.29-30, 明石書店

【参考】 試作版教材の第4課 一部抜粋

第4課 大学生活Ⅱ

ホームシック

考えてみましょう！

- ① あなたは今まで一人で海外に行ったことがありますか？
- ② あなたはホームシックという言葉を知ったことがありますか？
- ③ あなたが留学したい国はどこですか？

みなさんはホームシック (home sick) という言葉を聞いたことがありますか？最近、若者たちはよく海外に留学するようになりました。そして、留学する時は海外ではじめての一人暮らしを始める人が多いです。そこで、家族に会いたくなって、時々すごく寂しい気持ちになったりすることが多いです。こんな場合には、ホームシックという言葉を使います。

しかし、留学生のホームシックというのはこれだけのことではないようです。海外に行くと、まず気候や食生活が変わります。そして、これに体がなれるまでちょっと時間がかかるようです。また、言葉がよくわからなくて落ち込んでしまう人もいます。逆に、言葉がよく分かっていても、異文化のせいでうまく通じないという人もたくさんいます。そこで家族や友達が懐かしくて、時々国に帰りたいという気持ちになることが多いようです。ホームシックというのはこれらのことを全部含めて意味する言葉であり、留学生のほとんどが、多少ホームシックにかかるそうです。しかし、色々な友達を作ったり、だんだんその国に慣れてきたら留学生活も楽しくなってくるという人が多いです。

コメント：大学生協について

生協とは、「学生生活共同組合」を短くした言葉です。生協は日本の各大学にあり、大学生たちの生活を支援して、色々なことをやっています。ですから、実際、利益のためではありません。

生協の会員になると学生割引があって、とても便利です。会員になるためにお金を払いますが、大学を卒業する時に払ったお金はそのまま戻ってきます。生協はその会員のお金で成り立っているということです。

では、次のQuestionの答えを見ながら、実際、生協でどんなサービスがあるか、見てみましょう！



生協で本が買えますか？

☆もちろん。色々な教科書や本などを買うことができます。ほしい本がない場合は、予約できます。



生協で旅行のチケットを予約できますか？

☆もちろん。わざわざ旅行社に行かなくても、国内旅行や海外旅行を予約することができます。その他にバスや新幹線などのチケットも安く予約することができます。



生協には食事するところがありますか？

☆もちろん。学生専用の学食があります。学生たちが安心して食事できるように、全ての料理がとても安いです。



生協では買い物できますか？

☆もちろん。学生たちに重要な文房具をはじめ、電子辞書、ノートパソコン、デジタルカメラなども売られています。



その他にどんなサービスがありますか？

☆この他にも色々なレンタルサービス（レンタカーなど）や学生のアパート紹介、また引越しサービスまでついています。



## ホームシック

を乗り越える方法について

次の10つの回答のうち、ホームシックを乗り越える一番良い方法として取りあげたのが8つあります。あなたが正しいと思う答えにレをつけてください。

- 1 〈 〉 ホームシックは、そのうち治るものですから何もせず、ほっておいた方が良い
- 2 〈 〉 ホームシックになった時は、時間をなるべく忙しくすごした方がいい
- 3 〈 〉 ホームシックになったら、なるべく一人で解決した方がいい
- 4 〈 〉 ホームシックにかかったのは自分ひとりじゃない、ということを思い出すこと
- 5 〈 〉 国にいる家族に電話を入れること
- 6 〈 〉 この国に留学しようと決めたきっかけを思い出すこと
- 7 〈 〉 ホームシックは自立するうえで、ある意味でプラスの面もあると考えること
- 8 〈 〉 ジョギングやスポーツをすること
- 9 〈 〉 時間を作って、好きなことをすること
- 10 〈 〉 友達を作ること

**解 決：①**

ホームシックはほっておくと、うつ病になることもあるので、危険です。自分から楽しくやっていく方法を作りましょう！

**解 決：②**

時間があると色々思ってしまう、ホームシックになりやすいです。時間を忙しく過ごす中、勉強や遊びをバランスよく取ることが大事です！

**解 決：③**

ホームシックについて誰かに話すことは決して恥ずかしいことではありません。先輩や友人、又は先生に話して、アドバイスをもらいましょう！

**解 決：④**

実際、ホームシックになるのは留学生だけではなくありません。日本人の学生でも県外から来た場合、よくかかります。ですから、時々このふうに思うと、心強くなるでしょう！

**解 決：⑤**

家族に心配がかかると思って、遠慮するのはよくないです。逆に、家族に電話を入れ、その声を聞くことで支えられている気持ちがよく分かります。

**解 決：⑥**

どうしてこの国に留学を決めたかをもう一度思い出すこと。そして、留学であなたは何を期待しているかを、もう一度よく考えることが大事です。

**解 説：⑦**

ホームシックを経験するのは良くないことですが、それを乗り越えるために色々判断して、頑張らなければなりません。そういう意味では、自立するための段階だと考えてもいいです。

**解 説：⑧**

スポーツやジョギングをすることで時間を有効に使うことができます。また、運動は人間の脳の働きに良いので、ホームシックの時の暗い気持ちを消すうえで、役に立つでしょう。

**解 説：⑨**

時間を忙しく過ごすこともいいことだけど、無理して頑張ると疲れます。ですから、今まで自分がやってきた好きなことを続けたり、その国で楽しめることを見つけるのが大事です。

**解 説：⑩**

大学のサークル活動や色々なイベントに参加し、他の学生たちと友人関係を作ること。その中で心が通じる友達を作ることができたら、とても支えになります。

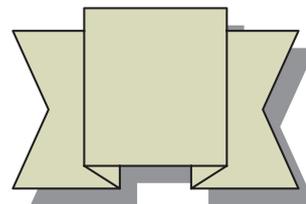


A：あなたは今年、日本に来た留学生です。今、すごくホームシックにかかっています。あなたより1年先に来日した先輩にアドバイスをもらってください。

B：後輩のAさんに、ホームシックを乗り越える方法についてアドバイスしてください。上記の解説を参考にしてください。

アドバイスする時のおすすめ表現

- — た方がいいですよ
- — しない方がいいですよ
- — してみたらどうですか
- — たらいいかもしれません
- — が効果的だと思いますが



## 大学生活Ⅱ

ホームシックって何ですか？

チン : あ、セルゲイさん、おはよう。元気？ちょっと元気なさそうね...

セルゲイ : ええ、最近ちょっと...

チン : 何？何があったの？

セルゲイ : いえ、別に...でも、体調がよくなって...

チン : よくないって、どんなふうによくない？

セルゲイ : うん、例えば、国では食欲があって、いつもよく食べていたんだけど、日本であまり食べたくないことが多いんだ。

チン : え、日本料理が嫌い？まずい？

セルゲイ : いや、逆に大好きだよ。ロシアでよく日本料理の店に行ってたけど、今好きなものを食べても、あまりおいしくないんだ？ それに...

チン : え、それに...何？

セルゲイ : 最近、遅くまでなかなか寝られないんだ。ロシアの音楽を聞いたり、毎日両親とか友達と話したりしてるんだけどね...とくに寂しいことがあるわけじゃないんだけど、朝から涙が出るほどくらい気分になったりするんだ。

チン : あ、そうか、分かった。それはホームシックなんじゃないかな。ぼくも来たばかりのころはずっと食欲がなかったし、何もしたくないし、誰とも話したくないことがあったよ。気分も一日中悪かったけど、時間が経つと、よくなってくるよ！心配しないでね。できるだけ友達とよく遊んだほうがいいよ。今度一緒に遊びに行こうよ。

セルゲイ : ありがとう。